**２０２３年７月29日(土)　与良館会場**

伊藤伊那男

木漏日や端居に探す虚子の跡 原水和実

銭蔵の南京錠や鉄線花 野中　威

〇 蟬声や懐古の螺子を巻き直す 萩原陽里

白濁の電球ふたつ夏座敷 原水和実

おうおうと打水屋号飛び交ひぬ 野中　威

野中　威

〇 入りたる虚子門といふ片かげり 伊藤伊那男

白濁の電球ふたつ夏座敷 原水和実

瑠璃蜥蜴いれて虚子の碑撮り直す 大矢知順子

店涼し遠近で蕎麦啜る音 萩原陽里

夏蝶の行きつ戻りつ野面積 原　水和実

内堀たづ子

入りたる虚子門といふ片かげり 伊藤伊那男

蔵食堂喰らふパスタのトマト味 高田　峰

〇 片陰も枡形添ひに城の町 伊藤伊那男

夏の蝶一坪花壇にしきりなる 三上朋子

青柿や白き土蔵の高き窓 野中　威

三上朋子

畑土のやつるる草に大西日 原　水和実

姥百合の三方を指す分れ道 浅野幸枝

片陰も枡形添ひに城の町 伊藤伊那男

一閃の山翡翠の空領す 海野良三

〇 青柿や白き土蔵の高き窓 野中　威

浅野幸枝

〇 片陰も枡形添ひに城の町 伊藤伊那男

おうおうと打水屋号飛び交ひぬ 野中　威

出で立ちは「くの一」の如草を刈る 内堀たづ子

片陰を拾ふ影踏み遊びめき 伊藤伊那男

大正の母のロマンスのうぜん花 内堀たづ子

大矢知順子

片陰はまたも途切れて時計見る 三上朋子

姥百合の三方を指す分れ道 浅野幸枝

〇 片陰に虚子の孫弟子その弟子も 伊藤伊那男

かぶりつくトマトや道の坂がかり 野中　威

虚子居士もこの片陰に憩ひしか 伊藤伊那男

萩原陽里

入りたる虚子門といふ片かげり 伊藤伊那男

瑠璃蜥蜴いれて虚子の碑撮り直す 大矢知順子

〇 片陰も枡形添ひに城の町 伊藤伊那男

出で立ちは「くの一」の如草を刈る 内堀たづ子

片陰を拾ふ影踏み遊びめき 伊藤伊那男

原　水和実

片陰も枡形添ひに城の町 伊藤伊那男

蟻の列影も日向も無き配置 萩原陽里

〇 青芝の歩きにくさうナナフシ来 浅野幸枝

浅間嶺の裾まはり込む朝の霧 萩原陽里

一閃の山翡翠の空領す 海野良三

海野良三

蟬声や懐古の螺子を巻き直す 萩原陽里

足一本足らぬ竹節虫夏の果 浅野幸枝

〇 瑠璃蜥蜴いれて虚子の碑撮り直す 大矢知順子

沢音の大緑蔭を去りがたく 山本道子

出で立ちは「くの一」の如草を刈る 内堀たづ子

山本道子

浅間嶺の裾まはり込む朝の霧 萩原陽里

道の辺の木椅子にリュック風灼けて 大矢知順子

〇 片陰はまたも途切れて時計見る 三上朋子

虚子居士もこの片陰に憩ひしか 伊藤伊那男

出で立ちは「くの一」の如草を刈る 内堀たづ子

高田　峰

〇 おうおうと打水屋号飛び交ひぬ 野中　威

銭蔵の深き底より涼気立つ 原　水和実

白濁の電球ふたつ夏座敷 原　水和実

入りたる虚子門といふ片かげり 伊藤伊那男

片蔭の幅に行列整ひて 浅野幸枝